製品安全データシート（ＭＳＤＳ）

1 製品及び会社情報

製品名	水アカ汚れ取りワックス２００
製品コード	15710
会社名	石原薬品株式会社
住所	〒652-0806　神戸市兵庫区西柳原町5番26号
担当部門	第一研究部第一課
電話番号	078-682-2321
FAX番号	078-682-4513
用途	自動車用つや出し剤
制定日	1998年9月26日
改訂日	2010年12月24日
整理番号	03023-6

――

2 危険有害性の要約

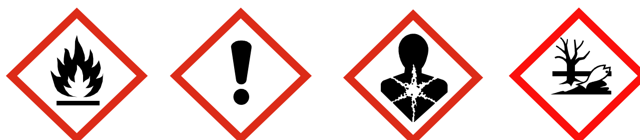
GHS分類

引火性液体	区分 3	
皮膚腐食性／刺激性	区分 2	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2B	
生殖毒性	区分 1	（１Ａ及び１Ｂ）
標的臓器毒性（単回暴露）	区分 3	
標的臓器毒性（反復暴露）	区分 2	
吸引性呼吸器有害性	区分 1	
水生環境有害性（急性）	区分 1	
水生環境有害性（慢性）	区分 1	

※記載のないものは分類対象外、区分外または分類出来ない。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性液体および蒸気
皮膚刺激
眼刺激
生殖能または胎児への悪影響のおそれ

（気道刺激性）呼吸刺激を起こすおそれ、又は眠気やめまいのおそれ（麻酔作用）
長期にわたる反復暴露により臓器（呼吸器、神経系、肝臓、精巣）の障害のおそれ
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

―――

3 組成、成分情報

化学物質　・混合物の区別

・混合物

成分名／化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法№※１	PRTR法№※２	毒劇物該非※３	安衛法通知№※４
水	40〜50	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当
ミネラルスピリット	35〜45	非公開	非公開	非該当	非該当	551
研磨剤	5〜10	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
シリコーン	2〜7	63148-62-9	非公開	非該当	非該当	非該当
防腐剤	1〜6	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当

※１　化審法　　官報公示整理番号(化審法)

※２　ＰＲＴＲ法報告物質

非該当　該当物質は含有しない

※３　毒物及び劇物取締法

非該当　該当物質は含有しない。

※４　労働安全衛生法

表示物質　：　施行令第１８条　名称等を表示すべき有害物質
通知物質　：　法第５７条の２、施行令１８条の２別表第９　名称等を通知すべき有害物質
第２種有機溶剤・第３種有機溶剤　：　施行令別表第６の２・有機溶剤中毒予防規則

通知対象物：ミネラルスピリットを含有する。

有機溶剤中毒予防規則

該当物質（ミネラルスピリット／第３種有機溶剤)を含有する。

―――

4 応急処置

大量に吸入した場合

- 呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- 吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- 上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

- 直ちに水で洗い流し、石鹸で液が付着したところをよく洗う。
- 直ちに、汚染された衣類をすべて取り除く。
- 汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用する。
- 皮膚に炎症が生じたり、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合

- 直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄する。

・眼の刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

・直ちに水で口の中を洗浄する。

・直ちに医師の診断を受ける。

・無理に吐かせない。

最も重要な兆候及び症状

・特になし

応急措置をする者の保護

・特になし

医師に対する特別注意事項

・特になし

――

5 火災時の措置

消火剤

・泡、粉末消火薬剤、二酸化炭素

・棒状注水（火災を拡大する恐れあり）

火災時の特有の危険有害性

・高温の金属表面などに接触したり、燃料官から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。

・燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

特有の消火方法

・指定の消化剤を使用する。

・消火作業は、可能な限り風上から行ない、有毒なガスの吸入を避ける。

・関係者以外は安全な場所に退去させる。

・火元への燃焼源を断つ。

・可燃性の物を周囲から素早く取り除く。

・初期の火災には粉末、炭酸ガス等を用いる。

・大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。

・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護

・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

・消火者は必ず適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、自給式空気呼吸器等を装備する。

――

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。

・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

・風上から作業し、風下の人を退避させる。

・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

・多量の場合、人を安全に待避させる。

・着火に備えて、消火用機材を準備する。

環境に対する注意事項

・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

回収、中和

・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。

・衝撃や静電気による火花を発生しないような安全な用具を使用して回収する。

・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

・アルカリ性の製品なので、必要があれば酸(希塩酸、希硫酸等)で中和する。

・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

・室内で漏洩した場合は、窓、ドアを開けて換気を行なう。

・廃棄物は関連法令に基づいて処理する。

二次災害の防止法

・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

・付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

———

7 取扱い上の注意

取扱い

技術的対策

・使用前に取扱説明書を入手すること。

・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

・指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。

・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。

・熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざける。

・静電気放電に対する予防措置を講ずる。

・火花を発生しない工具を使用する。

・防爆型の電気機器(換気装置、照明機器等）を使用する。

・火気を使用している室内で使用しない。

・眼、皮膚、または衣類に付けない。

・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。

・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。

・取扱いの都度、容器を密閉する。

・取り扱い後はよく手を洗う。

・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しない。

保管

適切な保管条件

・日光から遮断し、４０℃を超える温度に暴露しない。

・涼しい所、換気の良い場所で保管する。

・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかない。

・熱/火花/裸火/高温のもののような着火原から遠ざける。

・酸と一緒に保管してはならない。

・保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

・その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

・特になし。

———

8 暴露防止及び保護措置

設備対策

・取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とする。

・この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

・屋内は全体に換気する。換気の悪い場所及び蒸気の発生の多い場所には局所排気装置を設ける。

記載の無いものは、知見なし、あるいはデータなし

	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-C)
ミネラルスピリット	設定されていない	設定されていない	TWA：525mg／m3

保護具

呼吸器の保護具

・通常必要ないが、必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

・保護衣、通電性の靴（耐溶剤性）、前掛け等（耐溶剤性）。

適切な衛生対策

・この製品を使用する時に、飲酒又は喫煙はしない。

・取扱い後はよく手を洗う。

——

9 物理的及び化学的性質

外観	：	淡灰白色液体
臭い	：	わずかな溶剤臭
pH	：	8.5～9.5
融点/凝固点	：	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	：	約100℃
引火点	：	58℃（原液）
自然発火温度(発火点)	：	データなし
燃焼性	：	データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
蒸気密度	：	データなし
蒸発速度	：	データなし
比重	：	0.90～0.94
溶解性	：	水に可溶
オクタノール/水分配係数	：	データなし
分解温度	：	データなし
その他のデータ	：	データなし

——

10 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

・強酸化剤と反応する。

避けるべき条件

・高温の表面、火花または裸火により発火。

・高温多湿な場所での保管及び火気の近くでの使用。混触危険物質との接触。

・強酸化剤との接触を避ける。

混触危険性物質

・強酸化剤(引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐ。)

・酸化性物質との接触禁止。

危険有害な分解生成物

・燃焼した場合、不完全燃焼などにより一酸化炭素などが生成する可能性あり。

――

11 有害性情報

製品全体としての有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

ミネラルスピリット

引火性液体	区分３
皮膚腐食性／刺激性	区分２
標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分３（麻酔性、気道刺激性）
標的臓器／全身毒性（反復暴露）	区分２（肝臓、精巣）
吸引性呼吸器有害性	区分１

――

12 環境影響情報

水生環境急性有害性

情報なし。

水生環境慢性有害性

情報なし。

その他

現在のところ有用な情報はない。

ミネラルスピリット

水生環境有害性（急性）	区分１
水生環境有害性（慢性）	区分１

――

13 廃棄上の注意

・内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する。

・投棄禁止。

・廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても廃棄物処理業者に業務委託する。

・容器は内容物を完全に除去した後、廃棄物処理業者に業務委託する。

――

14 輸送上の注意

国際規制

国連分類

引火性液体　毒性なしクラス3

国連番号

引火性液体1993

国内規制

・荷くずれ防止を確実に行う。

陸上輸送

・消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送

・船舶安全法の定めるところに従う。

航空輸送

・航空法の定めるところに従う。

容器イエローラベル

引火性液体(極性／水可溶)127

輸送の特定の安全対策及び条件

・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。

・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。

・容器は、収納口を上方にむけて積載する。

・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

――

15 適用法令

消防法　（　）内は、指定数量

第四類第２石油類水溶性危険等級III（２，０００Ｌ）

労働安全衛生法

通知対象物質を含有する。(詳細は 3．組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)

該当物質を含有する。(詳細は 3．組成、成分情報を参照)

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法　(PRTR法)

非該当　該当物質は含有しない。(詳細は 3．組成、成分情報を参照)

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)

非該当(該当物質は含有しない)

船舶安全法

引火性液体

航空法

引火性液体

水質汚濁防止法

油分排出規制

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

油分排出規制

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物規則

外国為替及び外国貿易法（外為法）

―――

16 その他の情報

参考文献

化学物質等安全データシート（ＭＳＤＳ）-第１部：内容及び項目の順序　JIS Z7250:2005
ＧＨＳ分類結果データベース　(独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)
中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ
原料メーカー発行の製品安全データシート
15107の化学製品（化学工業日報社）
ＪＡＣＡ（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース
オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版　（日本オートケミカル工業会）

―――

※注意

製品安全データシートは､危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者に提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。